

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2010. 3. 31
第8号



多気北畠氏遺跡第32次調査区（東から 正面に北畠氏館跡、詰城跡を望む）

最近の調査から

たげきたはたけし かみ たげ
多気北畠氏遺跡第32次調査(美杉町上多気)

多気北畠氏遺跡は、雲出川の支流八手俣川上流の盆地全域に広がる北畠氏に関連した遺跡群の総称で、平成18年度から八手俣川を挟み北畠氏館跡とは対岸に位置する上多気六田地区で、城下の様子を解明するために調査を行っています。

上多気六田地区では、これまでの調査で、北畠氏館跡を中心とした城下整備の基軸となる東西幹線地割やそれに沿った屋敷地跡、金属生産に関わる遺物などが確認されました。

また、調査地のすぐ北にある六田館跡は、周囲に幅6m以上の堀が巡る東西50m×南北70mの方形の屋敷地跡で、調査によって堀の深さが3mにも及ぶことなどが明らかになっています。

第32次調査は、平成21年10月から12月に、平成19年度調査区東側の水田320㎡を発掘調査したところ、掘立柱建物が3棟、礎石の柱列、石組の井戸、粘土が詰められた土坑などが見つかりました。

また、調査区の南端では、建物などが見つかった面のさらに下層から、東西幹線地割に

沿った区画石列が見つかりました。

出土品は、16世紀中頃から末頃にかけてのものが多く、南伊勢系土師器と呼ばれる地元産の素焼きの皿や鍋が大半を占めています。これらのほかには、瀬戸美濃・常滑産の陶器類、中国産の青磁・白磁や鉄釘、少量ですが金属生産に関わる金属が溶けた滓かすなどもあります。

調査区周辺の地形は、もとは東側の山裾から八手俣川に向かって緩やかに傾斜する地形ですが、今回の調査で幹線地割に沿って計画的に屋敷地を区画するために、何度か土地の造成が行われていたことがわかりました。

毎年行われる発掘調査によって少しずつですが、室町時代から戦国時代にかけての北畠氏館跡周辺の様子が明らかになってきています。

(石淵誠人)



調査区位置図(国土地理院『伊勢奥津』、1:25,000より)



調査区全景と掘立柱建物(上から西)



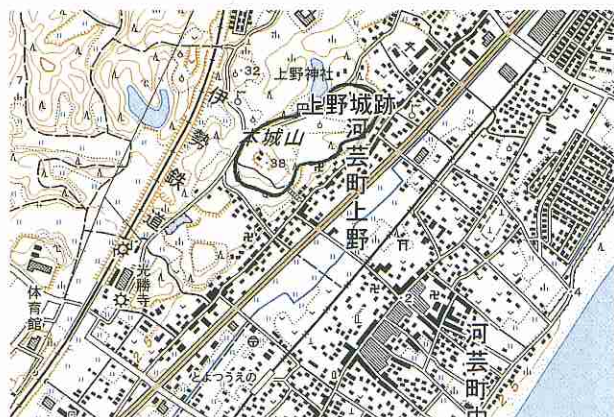
石組の井戸(南から)

上野城跡

上野城跡は、津市河芸町上野字城屋敷の伊勢湾を一望する標高20～38mの丘陵東縁に位置します。

上野城跡は東西約250m×南北約550mにおよぶ大規模な城跡で、城域南西部の最も高いところに「本丸」と呼ばれる主郭が存在します。主郭には東西約45m×南北30mの平坦地があり、その周囲には今も土塁が一部残っています。土塁の北西隅と北東隅にある櫓台状地のうち、北西隅のものは一辺が約15mの土壇状であることから天守台と考えられています。

主郭では、昭和57年に相撲場建設に伴う発掘調査、翌年に天守台で展望台建設に伴う発掘調査が実施され、土塁の内側をめぐると思われる溝や、天守台の南東隅では犬走り状の平坦地などが検出されました。建物跡は検出されませんでした。僅かながら瓦が出土



遺跡位置図 (国土地理院『白子』1:25,000より)



上野城跡航空写真 (東から)

していることから、主郭には瓦葺きの建物が存在したと考えられます。

また、主郭の周囲には郭状の平坦地や土塁、堀などが存在しますが、現在はその多くが本城山青少年公園として園地化されています。

上野城跡の築造の時期は明確ではないものの、文献によると、天文17年(1548)には長野氏家臣の分部氏配下の城として存在していたことが明らかになっています。

永禄11年(1568)の織田信長の伊勢侵攻後は、織田氏と長野氏との和睦により長野氏の養子となった信長の弟の織田信包が上野城に一時在城し、信包が安濃津城へ移った後は、再び分部氏が城主となったと推察され、元和5年(1619)に分部氏が近江国大溝(現在の滋賀県高島市)へ転封となったのを機に廃城したものと考えられます。(藤田充子)



天守台の発掘調査 (東から)



上野城跡出土瓦

市指定史跡 入田古墳

入田古墳は津市庄田町字入田、雲出川の支流である榊原川右岸の丘陵麓に位置します。

昭和39年(1964)に国道165号の改良工事に伴い発掘調査が実施されましたが、現在も国道北側の木立の中に、南西方向に開口した横穴式石室が残っています。

墳丘は直径約17.7m、高さ約3.6mの円墳で、両袖式の横穴式石室は、全長8.7m、^{げんしつ}玄室は長さ5.7m、幅1.4m、高さ約2.2m、狭長な石室であるにもかかわらず、玄室には2基の組合せ式石棺が安置されています。

2基の石棺は、^{いせぎ}井関石と呼ばれる一志町井関周辺で産出される砂岩の板石を組み合わせられており、奥壁に沿って置かれた石棺は長さ1.45m、幅0.65m、高さ0.4m、側壁に沿って置かれた石棺は長さ2.4m、幅0.65m、高さ0.6mで、奥壁側の石棺からは鉄刀や鉄鏃、側壁側の石棺からは鉄刀や^{じかん}耳環、玉類が出土しました。また、石室からも須恵器、土師器、鉄刀、^{てつじん}鉄鉾、鉄鏃、鉄釘が出土しており、出土した須恵器から入田古墳は6世紀後半に築造されたものと考えられています。



入田古墳（南西から）

入田古墳から500mほど先で榊原川は長野川と合流し、長野川はさらに大きく蛇行して雲出川へと注いでいます。長野川・榊原川下流域には、入田古墳をはじめ、庄田古墳群、^{いっしきやま}一色山古墳群など6世紀代の古墳群が多く所在することから、雲出川水系における要衝であったと考えられます。（藤田充子）



遺跡位置図（国土地理院『津西部』1:25,000より）



横穴式石室と組合せ式石棺（南西から）

市指定有形文化財 平田14号墳出土銀象嵌大刀

今回は、平田14号墳出土の銀象嵌円頭大刀を紹介いたします。平田14号墳は、津市安濃町妙法寺に所在する6世紀末から7世紀初頭に造られた一辺12m、高さ1.2mの方墳で、木棺直葬の埋葬施設からは、この大刀をはじめ、鉄鎌や刀子、須恵器などが出土しています。

この大刀は長さ73.1cm、身幅2.7cmの装飾大刀で、出土時には、樹皮漆塗りの円頭柄頭や樹皮線巻の柄間のほか、柄頭縁金具、鐔、鍔、鞘尻金具などの装具が確認されています。

円頭柄頭は取り上げ後に損壊してしまいましたが、柄頭縁金具に銀象嵌が認められたため、大刀や装具をX線透過撮影したところ、鐔、鍔、鞘尻金具にも銀象嵌が施されていることが明らかになりました。



遺跡位置図〔国土地理院『津西部』1:25,000より〕

銀象嵌は鉄などに模様を刻み、そのくぼみに銀線を埋め込んで仕上げる装飾の技法です。

この大刀には、柄頭縁金具と鞘尻金具縁に羽状文、鐔に渦文、鍔に円文が施されており、それぞれの象嵌の文様が異なるところに特徴があります。

銀象嵌を施した大刀は、この大刀を含め三重県下では、6世紀前半から7世紀前半の古墳から9例出土しています。このような装飾大刀は実用的なものではなく、葬られた人物の権威を象徴するもので、畿内政権との結びつきを示す副葬品の一つと推察されています。このことから、平田14号墳に葬られた人物は、安濃川流域における有力者であったと考えられます。(田中秀和)



銀象嵌部分(左:鞘尻、中央:鐔、右:円頭縁金具)



銀象嵌円頭大刀

埋文センターこの1年

平成21年度日誌抄

- 4月15日《見学》戸木小学校 31名(久居分室)
 4月24日《見学》神戸小学校 70名
 4月28日《普及》出張講座 櫛形小学校
 5月14日《閲覧》鎌切古墳群他出土玉類
 (鈴鹿市考古博物館)
 5月20日《普及》津中央公民館寿大学講師
 5月20日《閲覧》高井古墳関係資料
 (斎宮歴史博物館)
 5月26日《見学》河芸町健康づくり推進員会
 39名(久居分室)
 5月26日《普及》みえ歴史街道構想津地域推進
 協議会講師
 6月18日《閲覧》野呂氏館跡出土品(個人)
 6月22日《貸出》多気北畠氏遺跡出土栗形他
 (9月7日まで、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)
 6月29日《閲覧》藤谷埴輪窯出土埴輪(個人)
 7月3日《閲覧》鎌切古墳群他出土玉類
 (鈴鹿市考古博物館)
 7月6日《普及》出張講座 朝陽中学校
 7月8日《普及》出張講座 朝陽中学校
 7月12日《見学》斎宮歴史博物館友の会
 42名(久居分室)
 7月22日《貸出》高井古墳関連資料
 (9月9日まで、斎宮歴史博物館)
 8月7日《閲覧》明合古墳出土埴輪・須恵器(個人)
 8月19日《見学》津市教育研究会南ブロック社会部会 4名
 8月31日《閲覧》山ノ下古墳群B支群出土鉄製品(個人)
 9月10日《普及》東観中学校職場体験 2名(9月12日まで)
 9月24日《貸出》鎌切古墳群他出土玉類
 (12月18日まで、鈴鹿市考古博物館)
 10月1日《普及》南ヶ丘小学校社会科講座
 講師(10月8・15・29日)
 10月7日《調査》多気北畠氏遺跡第32次調査(12月28日まで)
 《見学》津西地区老人クラブ連合会 21名
 10月17日《見学》森林セラピー参加者 13名(美杉分室)
 11月2日《閲覧》坂本山中世墓他出土遺物
 (愛知県史編さん室)
 11月4日《調査》詳細遺跡分布調査(2月15日まで)
 11月11日《普及》西郊中学校職場体験 3名(11月13日まで)
 11月23日《普及》津ふるさとめぐりの旅
 (久居分室、24・28・29日)
 11月24日《調査》久居城下町遺跡第10次発掘調査(11月27日まで)
 11月27日《普及》一志町歴史語り部の会講師
 12月3日《見学》弁財会 8名
 12月4日《普及》山ノ下古墳群B支群資料提供
 (株)ジャパン通信情報センター
 12月12日《普及》多気北畠氏遺跡第32次調査現
 地説明会 30名
 12月16日《見学》倭公民館 20名
 1月21日《普及》高齢者福祉団体緑風会講師
 2月14日《普及》津市河芸町郷土研究会講師
 2月20日《普及》考古学講座 51名
 2月27日《普及》考古学講座 48名
 3月6日《普及》考古学講座 47名
 3月6日《見学》久居城下案内の会
 20名(久居分室)

編集後記

今年度も多気北畠氏遺跡、久居城下町遺跡等の発掘調査や報告書作成等あっという間の1年が過ぎ去ろうとしています。もうすぐ、桜の花も満開になります。新しい1年のスタート。今年はどんな遺跡にめぐり合えるか楽しみです。(編集子)

発行日：平成22年3月31日
 編集発行：津市埋蔵文化財センター
 〒514-0058
 三重県津市安東町1225
 TEL 059-229-0210
 FAX 059-229-4601
 印刷：森田印刷株式会社